会 議 記 録					
会 議 の 名 称	決算特別委員会 総務文教分科会			会議場所 第3委員会室	
				担当職員 藤村	
日 時	平成25年9月27日(金)			開 議	午前 10 時 00分
				閉 議	午後 3 時 27分
出席委員	吉田 田中 並河 山本 中村 西村 石野 堤 <木曾議長>				
執行機関出席者	人見監査委員事務局長、船越監査委員事務局次長 竹岡教育長、辻田教育部長、川勝教育部次長、河原教育総務課長、石田教育総務課副課長、 松山学校教育課長、国府教育研究所副所長、小西学校給食センター所長、樋口社会教育課 長、玉記人権教育課長、高屋図書館長、黒川文化資料館館長				
事務局	藤村事務局次長				
傍聴	☒ 可 ☐ 否	市民 0名	報道関係者 0名	議員 0名	その他(他市議員) 0名

会 議 の 概 要

- 1 吉田委員長 あいさつ 開議
- 2 日程説明
- 3 議案審査

<吉田委員長>

明日の事務事業評価に向けて資料を十分に見てきてもらいたい。論点に沿った議論ができるよう改めてお願いしておく。

(1) 平成24年度一般会計決算認定について

10:03~

【監査委員事務局】

監査委員事務局長 挨拶、説明

~ 10:09

質疑

<堤委員>

P45、公平委員報酬、P55、監査委員報酬について、少ない報酬で頑張っているが、これ以外に別枠で費用弁償はあるのか。

<監査委員事務局長>

公平委員は費用弁償の支給がある。監査委員も条例で定めた月額を支給している。

<並河委員>

P 5 5、出先監査 1 2 箇所とは何かルールに基づき実施するのか。

< 監査委員事務局長 >

出先監査は定期監査の一環として位置付けて実施している。基本的には小・中・幼、保育所と言った市直営施設を対象にしている。1年で全部は無理なので2～3年ごとにローテーションしている。特段ルールの定めはない。

～ 1 0 : 1 2

【教育部】

教育長 挨拶

教育部長 亀岡市教育委員会点検・評価報告 説明

【中学校費まで】

各課長 説明

～ 1 1 : 1 5

(休 憩)

1 1 : 2 5 ~

質疑

< 石野委員 >

P 1 9 3、不登校対策支援員が配置されている安詳小、つつじヶ丘小、亀中、南中以外に不登校児はいないのか。

< 学校教育課長 >

他校にもいる。小学校で24人、中学校で69人である。

< 石野委員 >

他校への支援は。

< 教育部次長 >

不登校児は全ての小中学校に在籍しているが、人数が多いだけでなく状況が複雑なところに支援員は配置している。

< 石野委員 >

連携してやってほしい。

P 2 0 1、遠距離通学児童補助は安詳小に13人とあるが、2学期は8月の終り頃から始まるがしっかりと対応しているのか。

< 学校教育課長 >

8月の終わりからも補助している。

< 石野委員 >

P 2 1 5、詳徳中の遠距離通学生徒補助は夏休みのクラブ活動への対応、2学期の早期開始に係る対応は。

< 学校教育課長 >

両方とも補助している。

< 石野委員 >

クラブ活動では2往復する生徒もいるが、その点は。

< 教育部長 >

クラブ活動には回数券を渡している。10日間分ぐらいであるが、1日に2往復なら足りない。改善については検討していきたい。

< 石野委員 >

頑張ってクラブ活動をしている。教育の一環として十分な手当をされたい。

< 山本委員 >

P193、不登校支援員を配置してどう改善されたか。

< 教育部次長 >

昨年末は小学校で24人、中学校で69人であったが、H25の1学期の段階で小学校16人、中学校51人だった。若干減少している。月に3回以上、年間30日休んだら不登校としている。放課後だけ登校できたり、時間を限定して授業に参加できたりと、数字はあまり変わらなくても状況は変化している。

< 山本委員 >

P200、基礎学力の具体的な授業内容は。学校の選定基準は。

< 教育部次長 >

府の学力診断テストの平均点も基準の一つにしている。取組内容は各学校様々で、放課後、夏休みの学習、個別に渡す課題等でかなりの効果が上がっている。

< 山本委員 >

担任の先生がするのか。

< 教育部次長 >

出来る限り学校の先生が対応している。府からの支援があるところはプラスアルファになる。インターンシップ生、地元学園大学の学生も支援に加わっている。

< 山本委員 >

P203、学びを支える教育推進経費について、16名の支援員は通常学級の中に入るのか。支援員の給料体系は。

< 教育部次長 >

支援の内容はここ最近多いのは通常学級に入る支援。当初は特別支援学級にも支援していた。通常学級に所属しながら教科によっては特別支援学級で授業をする者もいるのでそういう支援にあたっている。

< 学校教育課長 >

1日7時間15分以内で様々な勤務時間があるが、1時間当たり1千円。

< 山本委員 >

小学校に16人だと後の2校は。

< 教育部次長 >

府から配置がある。

< 並河委員 >

P199、P211、要保護援助費の周知方法は。

< 学校教育課長 >

学校を通じて周知している。申請期限等は保護者に対して通知している。

< 並河委員 >

学校だけではなく、教委、お知らせ版等広く広報はしているのか。

< 学校教育課長 >

入学時に学校から説明している。特に広報はしていない。

< 並河委員 >

入学時から状況の変わっている家庭もある。各学年で制度の周知をしっかりとさ

りたい。

給食費の滞納はあるのか、その内容は。

< 学校給食センター所長 >

滞納はある。H24末の滞納額は、調定額2億4,703万4,270円、うち未収額102万4,438円。過年度分は、調定額284万2,924円、未収額167万5,727円。合計で調定額2億4,987万7,196円、未収額270万165円。収納率は、現年99.59%、滞納分の収納率41.06%。合計で98.92%。

< 並河委員 >

分析は。

< 学校給食センター所長 >

直接の徴収は学校でしている。必要な場合は要保護の制度も知らせ、説明している。

< 並河委員 >

不用額の主なものは。

< 教育総務課長 >

委託料、工事請負費の入札執行残が主なものである。

< 西村委員 >

P205、給食センター管理経費について、100万食には30kgの米が何袋か。

< 学校給食センター所長 >

集計していない。

< 西村委員 >

後で答えられたい。1kg当たりの単価は。

< 学校給食センター所長 >

ご飯は業者委託であるので仕入れ単価は承知していない。1食分57円で食数分を支払う。

< 西村委員 >

調べて報告を。野菜の仕入れ先は。

< 学校給食センター所長 >

J A 亀岡、学校給食会、ヤマキチ等の4業者。見積もり合わせで品質、価格を勘案して決定している。

< 西村委員 >

亀岡産野菜を使っているというが、他市の業者では不明である。J A は生産管理が出来ている。ないものは仕方がないがJ A にまとめるほうが品質はいい。市外業者は何を納入しているのか資料を提出されたい。

< 学校給食センター所長 >

地産地消に心がけているが、ブランドになると割高になることもある。概ね15%割高までは亀岡産を用い、それを超えると他産地の物を購入している。

< 西村委員 >

できる限り地産地消をされたいと思うがどうか。

< 学校給食センター所長 >

理解している。価格面で保護者の理解が得られればそうしたい。

< 西村委員 >

今の仕入れ単価を出されたい。亀岡産と比べてみる。

< 中村委員 >

不登校生徒は中学校で69人か。

< 教育部次長 >

先ほどの年間の目安でいくと人数は69人。昼からだけ登校する子等を入れると若干変わる。民間のフリースクールに行っていれば出席とみなす府の現実もある。

< 中村委員 >

不登校であっても全員が進学したと聞いて安心しているがより学校と連携されたい。

要保護、準要保護について、中学校費では人数が減っているのに金額が増えているのはなぜか。一人当たり支給額は決まっているのか。

< 学校教育課長 >

学用品は定額だが、通学費は実費であり、校外費は上限があったりで、内容により違う。

< 吉田委員長 >

個人で金額が決まっているのか。

< 学校教育課長 >

個人によって金額が違う。

< 教育部長 >

要保護から準要保護に年度途中で変更になったり、昨年との校外学習費、修学旅行費の単価差が考えられると思われる。

< 中村委員 >

所得のランクで負担が変わるわけではないのか。

< 教育部長 >

認定したら支給は同じである。

< 堤委員 >

P205、給食センター管理経費について、教師から給食費は集めているのか。

< 学校給食センター所長 >

同額もらっている。量については、3～4年生を1とすると5～6年生を1.1、1～2年生を0.9としており、先生は1.1としている。

< 堤委員 >

小中の学校施設管理経費について、体育館、グラウンドを社会人が使う場合の使用料が歳入になっていると思うが、使用料は市民体育館等と合わせているのか。基準は。また見直しは考えているのか。

< 教育総務課長 >

学校施設の使用料はH16.3の条例設置により金額を定めており、それから改正はない。子どもたちの使用時は10割、体育振興会、自治会等での使用は1/2というような減免がある。

< 堤委員 >

光熱水費が大きなウェイトを占めている。夜の電気代は大きい。応分の負担をしてもらうべき。一定期間たったら見直して支出経費を抑える研究はしているのか。

< 教育総務課長 >

固定した使用が主である。逆に安くないかという声もある。地域の施設としての役割もあり、今まで検討したことはなかったが、今後はご意見を踏まえて慎重に検討していきたい。

< 堤委員 >

P215、スクールバス運行委託経費について、育親中64人で1,500万円なのか。委託先、内訳は。

< 学校教育課長 >

育親中のスクールバスとして運行しており、畑野町から通う64人が対象。大型バス3台を京阪京都交通に委託している。

< 堤委員 >

64人に1,576万円使っているのか。

< 学校教育課長 >

そうである。

< 田中副委員長 >

P195、シルバー人材センターに委託している用務員は小中それぞれ何人か。

< 教育総務課長 >

小学校は10校分、中学校は4校分。業務内容と期間で委託しているので人数は把握していない。

< 田中副委員長 >

業務完了確認、指示は誰がしているのか。

< 教育総務課長 >

シルバー人材センターから市教委に報告がある。

< 山本委員 >

P214、生徒指導対策経費について、問作委員会のメンバーは。生徒からは回答を返してほしいという声があるがどうか。

< 教育部次長 >

作成は現場の先生で、5教科3~4名を校長会で選出する。片よることなく選出している。保護者から答案を返してほしいという声も聞くがこれは模擬テストではない。本試験になれるため、公立の入試と同じ形態で作成している。進路指導のために行うものであるため返却していない。個別指導については活用している。クラスの指導改善等につなげている。模擬テストではない。

< 木曾議長 >

昨年の4月に通学途中の事故で児童がなくなったが、交通事故なので学校保健会で対応できず、見舞金が出ただけと聞いている。亀岡が率先して申し入れをする等ならかの手立てが要る。過去につつじ小でなくなった子には学校保健会の対応と市も弔慰金を出した。つつじ小は1日を安全の日として今でも取り組んでいる。4月23日を忘れずに何らかの取り組み、気構えは。

< 教育部長 >

学校保健会は第三者事故の場合出ない。つつじ小の時は学校管理下で起きたので少し違う。23日は安詳小では「心をつなぐ日」と定めて安全点検している。

< 木曾議長 >

教委はその認識で対応しているのか。

< 教育部長 >

学校保健会の規定があり、その対応にならざるを得ない。

< 木曾議長 >

安全安心のまちづくり、セーフコミュニティのまちを標榜している本市の対策として、今後は方向性を考えなければ保護者も納得しないと思うがどうか。

< 教育部長 >

おっしゃる通りであるが、保険に代わるものがない。今の状況では対応のしようがないのが実態である。

< 木曾議長 >

夏休みのプールは他の保険をかけて対応している。それと同じように通学路に対しても担保するものがなければ安心して通学できない。今後、研究は。

< 教育部長 >

研究はしていかなければならないと思っている。

< 木曾議長 >

第三者行為の場合、対応できないのなら大阪の池田小の時はどうだったのか。

< 教育部長 >

個々の事例は承知していないが、交通事故はその保険から出すことが基本になっている。

< 堤委員 >

スクールバスが運行中に事故したら、どう補償するのか。

< 教育部長 >

スクールバスはその運行に保険をかけている。市が運行するものなので何らかの手立てが要る。通学路についてはどんなことができるのか研究しなければならない。

< 吉田委員長 >

全国の通学路への対応について学校保健会で何とかできないかということをお本市が中心となってアピールされたい。

～ 12 : 23

(休 憩)

13 : 30 ~

【教育費幼稚園費～、歳入】

各課長 説明

～ 14 : 16

質疑

< 西村 >

P 2 2 1、成人式の記念品の内容、単価は。

< 社会教育課長 >

昨年度はコンパクトミラーで、単価は262円。合計27万2千円支出した。

< 西村委員 >

20歳の節目のお祝いの記念品である。赤ちゃんの絵本より金額が少ない。もう少し記念になるものを贈られたい。

丹波国分寺跡の事業は最後まで頑張ってやってほしい。

P 2 4 2、七谷川野外活動センターは法令違反はないのか。

< 社会教育課長 >

特に法令違反はないが、ツリーハウスは協議の必要がある。20年経過し経年劣化もあり、12月定例会に上程予定であるが、宿泊利用しないようにしていきたいと考えている。

< 西村委員 >

今は使っているのか。

< 社会教育課長 >

使っている。

< 西村委員 >

知ってやるのは重大な法令違反となる。即座にやめるべきである。

< 社会教育課長 >

おっしゃる通りである。若木の家の時、七谷川野外活動センターのことも府等と協議し、宿泊しないことに決定した。12月定例会で条例改正を上程させていただく。

< 西村委員 >

受け付けをしないようにされたい。

< 社会教育課長 >

承知した。

< 並河委員 >

P222、社会教育団体への補助金の算定基礎は。

< 社会教育課長 >

特に人数割りではない。それぞれ補助要項を作っており、これまでの協議で金額を決定している。特にPTA連絡協議会は全国大会の分科会開催もあり、20万円増額した。

< 並河委員 >

P229、図書館の馬堀・大井分館の共益費の積算は。

< 図書館長 >

大井分館は204、206、207号室の3部屋分の共益費で169万1,520円。馬堀は40万2,000円。面積割で算出されている。駐車場も入っている。

< 並河委員 >

P238、連続文化財講座で話し合われた資料館のイメージは。

< 文化資料館長 >

あらゆる階層の方に親んでもらえる資料館、亀岡のための市民で作った資料館「自分の資料館」にまとめるため4回の講座で助言をいただいた。

< 並河委員 >

講座の参加人数は。

< 文化資料館長 >

各20名程度。

< 石野委員 >

P238、市史の頒布について、いくら残っているのか。

< 文化資料館長 >

全8巻で17,000冊刊行し、H24販売の54冊を加えて10,941冊販売済み。残りは6,059冊である。頒布率64.3%。

< 石野委員 >

市制60周年を迎える。積極的に市内外に販売されたい。

P236、山鉾に関連して、府道の修復がされているが、電柱、電線の地中化への動きは。

< 社会教育課長 >

地中化は多額の経費を要し、特定財源を獲得して早期に実現できればと思っている。そうでなければ地元負担が大きい。実車化は国の10/10補助を受けてする。

< 石野委員 >

鉾町の皆さんは頑張っていていただいているので是非とも努力されたい。

< 山本委員 >

P226、地域で支える学校教育推進事業は何に使っているのか。

< 社会教育課長 >

コーディネーター謝金、ボランティア保険代、消耗品等。コーディネーター4名の謝金は1,480円×時間数で27万4,000円。研修旅費3,600円、需用費355,770円。ボランティアの保険代は83名×500円で41,500円。

< 山本委員 >

育親中校区、別院中校区とは。

< 社会教育課長 >

H20からの事業で大成中学校から始まった。H23からは中学校区ごとにそれぞれ実施し、H25は別院、南中校区。順にすべての校区に広げていく。

< 山本委員 >

P237、文化資料館のそれぞれの来館者数は。図書館が新しくなったが、そこでのミニ展示は可能か。

< 文化資料館長 >

有料入館者2,191人、無料4,015人の計6,206人。展示会総数は2,191人になる。利用者8,812人とはタウンミーティングで出張して話をした2,606人を利用者総数に足している。

< 図書館長 >

3階に展示ホールを設けていきたいがまだ未定である。

< 中村委員 >

P235、国分寺の土地購入について、㎡単価12,000円、坪単価36,000円というのは今どきの農地にしては高い。今後、これが基準になっていく。鑑定評価でこれだけの金額になるのか。

< 社会教育課長 >

不動産鑑定評価に基づいた額である。H2から実施してきたものだが、当時はそのぐらいの金額であった。H18にもう一度新たに評価をとり、12,000円の単価が出てきた。府道関係は15,000円で地元からはそれに合わせてほしいという声も出ていたが鑑定評価に基づいてしている。

< 中村委員 >

一般的に説明できる単価でないといけないので確認した。

生涯スポーツ振興は体育協会に委託しているが、10月開催の「ギネスに挑戦」は参加自治体が少ない。もう少し参加されるような工夫は。

< 社会教育課長 >

少しでも参加者を増やしていきたい。広報も含めて考えている。スポーツ推進員にも進めてもらっている。

< 中村委員 >

各地のスポーツ指導員にはご苦労いただいている。スポーツのまちとして進めていくならもっと工夫をされたい。

< 木曾議長 >

P235、文化財保護経費、顕彰会等に補助金が出ているが、市制60周年に向けて、生涯学習の祖、石田梅岩先生の顕彰もしっかりとやっていってほしい。にそとが出来て注目されてくるので文化財のある所にはトイレの設置もして気持ちよく迎える取り組みをされたい。観光担当課とも連携をとってやられたい。

< 社会教育課長 >

文化財の保存継承に多額の経費をかけている。亀岡の宝である。それらを生かしてまちづくりを進めていかなければならない。観光戦略課とも連携を取って進めていき

たい。

(教育部退室)

～ 14 : 52

(休憩)

15 : 15 ~

【事務事業評価打ち合わせ】

< 吉田委員長 >

事務事業評価実施に伴う留意事項について事務局から説明されたい。

< 事務局 >

評価の流れ、資料、評価シート等の説明。

< 吉田委員長 >

時間的に相当タイトである。各課から出てきた事務事業評価に係る資料に十分、目を通して整理をしておかれない。事業評価につながる質疑をされたい。評価表を埋めるときに皆さんの意見を聞くが、少数意見を出した人は各自覚えておいて、その意見を述べられたい。スムーズに進行できるよう協力願いたい。

< 西村委員 >

最後に担当部に意見は聴くのか。

< 吉田委員長 >

聴く。

< 木曾議長 >

他の2つの分科会の状況だと理事者の説明が長い。委員長から執行部に簡潔に説明するよう言っておかれない。

< 吉田委員長 >

強い要望であることを事務局から伝えられたい。

資料を十分、見てきていただくことをお願いし、その他、何もなければ、これで総務文教分科会を閉議する。

15 : 27 閉議